

**ゲンビどこでも企画公募 2012 展 (審査結果・展覧会開催)**  
**2012年9月22日(土・祝)～10月21日(日)**

主催：広島市現代美術館

協力：オタフクソース株式会社、オリエンタルホテル広島、広島アンデルセン

**募集開始から約2ヶ月。最終審査結果を発表します！**

「ゲンビどこでも企画公募」は、広島市現代美術館のパブリックスペースを発表の機会を求めているアーティストに開放して開催するオープン・プログラムです。広く作品のアイデアを公募し、審査を経て入選した作品を展示します。アーティストの意欲的な表現をサポートし、発表の場を提供するとともに、美術館という場の新しい魅力を発信することを目的としています。

第6回目の開催となった今年も多数の応募をいただき、特別審査員、広島市現代美術館スタッフ等による審査の結果、8点の入選作品を決定しました。

審査の重要なポイントは、美術館の様々なスペースの特徴を活かした作品で、空間と作品の魅力を互いに引き出しあっていること。展覧会をぜひご期待ください。

**特別審査員賞3点を含む、計8点の入選作品**

【応募総数】106件

【入選】8件(特別審査員賞3件、地元協力企業賞1件含む)

※特別審査員：豊嘸(アーティスト)、粟田大輔(美術批評)、山出淳也(NPO法人 BEPPU PROJECT 代表理事)

【審査の流れ】美術館学芸員による一次審査を行った後、特別審査員等を交えて二次審査を行い、特別審査員賞等ならびに入選作品を決定。

※最新情報から企画詳細まで！特設サイトでご紹介しています。

<http://www.hiroshima-moca.jp/dokodemo/>

**「観客賞」そして「授賞式」「地元協力企業の日」など、作品鑑賞だけにとどまらない楽しみ方があります**

【展覧会 会期】2012年9月22日(土・祝)～10月21日(日)

【開館時間】10:00-17:00 ※入場は閉館30分前まで

【休館日】月曜日 ※ただし祝休日に当たる場合は開館し、翌平日休館

※観覧無料

**<授賞式>**

2012年9月22日(土・祝) 14:00～

入選者への賞状及び金一封、地元協力企業からの副賞贈呈。参加者には地元協力企業の提供による食を楽しむスペースをご用意しています。※参加自由

**<地元協力企業の日>**

・2012年9月23日(日) / 広島アンデルセンの日(石窯食パン)

・2012年10月7日(日) / オタフクソースの日(広島お好み焼こだわりセット)

当日、観客賞に投票くださった方(先着50名)にプレゼントをお渡しします。

**<観客賞>**

来場者による投票で入選作品の中から観客賞(1名/組)を決定します。

投票期間：9月22日(土・祝)～10月7日(日)

※10月9日(火)結果発表(特設サイト)



- ・アーティストの育成
- ・美術館の新たな魅力を発信
- ・創造の場、交流の場をつくる

<地元協力企業の日>

当日観客賞へ投票した先着50名にプレゼント!

- 9月23日(日) / 広島アンデルセン
- 10月7日(日) / オタフクソースの日



(左) オタフクソース株式会社

「広島お好み焼こだわりセット」

(右) 広島アンデルセン

「石窯食パン」



【特別審査員賞（3作品）、地元協力企業賞（1作品）】

奨励賞

横田健司（よこた・けんじ）《sky climb》



1978年広島県生まれ、2010年横田健司建築設計事務所設立／アプローチプラザの屋根により円形に切り取られた空に向かって登る展望台。階段の頂上には鏡が貼られ、そこに立つとまるで空や雲の上に乗っている気分が味わえる。

山出淳也賞

芳木麻里絵（よしき・まりえ）《Silkscreen works》



1982年京都府生まれ、京都市在住／シルクスクリーン技法を用い、インクの層を何百層も重ねた作品。刷り重ねることで立ち上がってくるインクの層は、二次元とも三次元ともつかないイメージの存在を提示する。

粟田大輔賞

鳥公園（とりこうえん）《待つこと、こらえること》



2007年東京都で結成／アプローチプラザや回廊といった円形の空間を活かしたパフォーマンス。会話をしながら歩きつづける2人の女。堂々巡りするやりとりの中で生じる苛立ちや行き場のないエネルギー。それが蓄積されゆがんでいく様を身体で表現する。  
写真／2011年、鳥公園#6「おねしょ沼の終わらない温かさについて」、撮影者：塚田史子

オリエンタルホテル広島賞

藤原康博（ふじわら・やすひろ）《境界》



1968年三重県生まれ、伊賀市在住／床面から浮遊する樹木は、ビーズを糸に通したものの。円形状に配されたビーズの樹木は、現実と非現実の世界を隔てるモノのメタファーとして観客を取り込む。

【入選（4作品）】

岩本質伴（いのもと・がはん）／大手前大学  
メディア・芸術学部 建築・インテリア系特設チーム  
《比治山公園のクモの巣小屋》



大衆的な技術・材料・工法で“建築”を造ることが可能かどうかを問う作品。完成した空間は、素材の風化や日光による影のかたちの変化など、時の流れを感じさせる。

木村奈央（きむら・なお）《presage 予兆》



1964年東京都生まれ、芦屋市在住／レシートをちぎり、加工した無数の蝶が空間をただよう。感熱紙のもつ時の経過や熱によって変化するという特質を活かした作品。空中に舞う蝶は観る者に何かをはらんだ「予兆」を意識させる。

スナックその《荒唐無稽である特権》



2010年大阪府で結成／どう猛な野獣が実は小さなヒヨコの集合で形成されている。現代社会の危機的な状況と、それに降伏し放棄したように無関心に生きる人間が作る、矛盾に満ちた世界を表現。

オマル・ロサレス《Plasticmorphosis》



1976年メキシコ生まれ、広島市在住／無数に組み合わせられたゴミ袋が、内蔵されたファンの風によって、突然変異で発生した植物のような造形を生み出す。ゴミ袋という安価でささやかな日用品に「生命」を吹き込む作品。

## 審査を終えて～特別審査員による審査講評

### 齋嘔（あいおう）／アーティスト

審査を終えて

ゲンビどこでも企画公募 2012 の応募用紙より次の方法で選びました

- ①イメージが明快なもの
- ②具体可能と思われるもの。

以上

齋嘔賞には横田健司《sky climb》を選びました。実現された作品を期待します。



Photo: Ichiro Otani

1931年茨城県生まれ。絵画や彫刻、立体などさまざまなモチーフを七色の虹のスペクトルで覆う作品などで知られるアーティスト。

### 栗田大輔（あわた・だいすけ）／美術批評

ヒロシマという場所性や東日本大震災について言及する作品が幾つか見られましたが、私たちにとってそれらの経験が物理的にも心理的にも決して一様でないように、ひとつひとつの表現が描き出す世界観は必然的に複雑な層をなしています。よって、とりわけ震災以降に美術のあり方を問い直す作品や言論が散見されますが、ヒロシマや震災に限らず、安易に一元化されることのない表現（それは場合によっては目立つものではないかもしれませんが）に注視していく必要があるように思います。こうした中で今回の審査では、一見普通のように見えてどこか違和感のある状態を潜在させた案に着目しました。私たちは今、たとえばエネルギーの問題などをみても「普通」の状態を問い直さなければならぬ地点に立っていますが、「普通さ」の中にかに「違和感」を滑り込ませることができるのか。「鳥公園」による「結論の出ないガールズトークとその苛立ちの蓄積」のような、普通のように見えてどこか違和感のある状態が会場に現れることを期待しています。



1977年東京都生まれ。美術批評を専門とし、2011年に立ち上げたアート専門のインターネット放送局【comos-tv】の運営メンバーとしても活動。

### 山出淳也（やまいで・じゅんや）／NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事

応募作品はどれも意欲的で、レベルが高く美術館のスペースを活かした提案ばかりだった。どの作品が受賞してもおかしくなく、審査していて安心感があつた。

だから逆に、ある程度完成を予想できる作品、どこかで見たことあるように感じる作品も多かったという印象もある。もっと、予想を裏切り、理解を超える作品が多く出ると面白い。アートはディスプレイではなく、ものの見方や考え方を変えてくれる媒体であるならば、美術館という空間や、美術それ自体にチャレンジしていく提案があってもいい。

その中で、山出賞を贈らせていただいた芳木麻里絵さんの作品は、支持体から離れ平面と立体の間というべき仕事で、圧倒的な完成度もあわせて、是非見たい、今後一緒に仕事をしてみたいと思わせてくれる作品だと感じた。何層にも積み重ねられたフラジャイルなディティールが、時代の感覚を反映しているかのようで大変興味深い。



1970年大分県生まれ。別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」総合プロデューサー（2009、2012）。

広島市現代美術館（学芸担当：齋藤 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121(掲載用)・082-264-1146(学芸直通)

FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



**Hiroshima MOCA**  
Hiroshima City Museum of Contemporary Art